

# 音調と語音について －母音を中心に－

山田高明  
(一橋大学大学院/NINJAL)

ワークショップ：「九州方言音調の研究」のこれまでとこれから  
(2021年9月26日、日本音声学会)

# 本発表の概要

- 熊本県の二型アクセント体系の諸方言には、語末の母音がアクセント型の実現に影響を与える方言が見られる
  - 音響分析の結果をもとに記述、類型化
- A型は3方言（平野方言、年の神方言、野津方言）に共通して、  
広母音終わりのほうが下降開始が遅い
- B型における語末の母音の広狭の影響は3タイプに分類できる

# 発表の流れ

1. 母音の広狭とアクセントの実現
2. 先行研究
3. 熊本県の二型アクセント諸方言
4. まとめ

# 母音の広狭とアクセントの実現

# 母音の広狭とアクセントの実現

- 音調と語音（分節音）の関係

- 母音の広狭：狭母音 /i, u/ vs. 広母音（非狭母音） /a, e, o/

- 北奥羽・北陸・九州北部、四国、千葉中部などには、母音の広狭がアクセントの実現に関係するようなアクセント体系が分布（松森ほか2012）

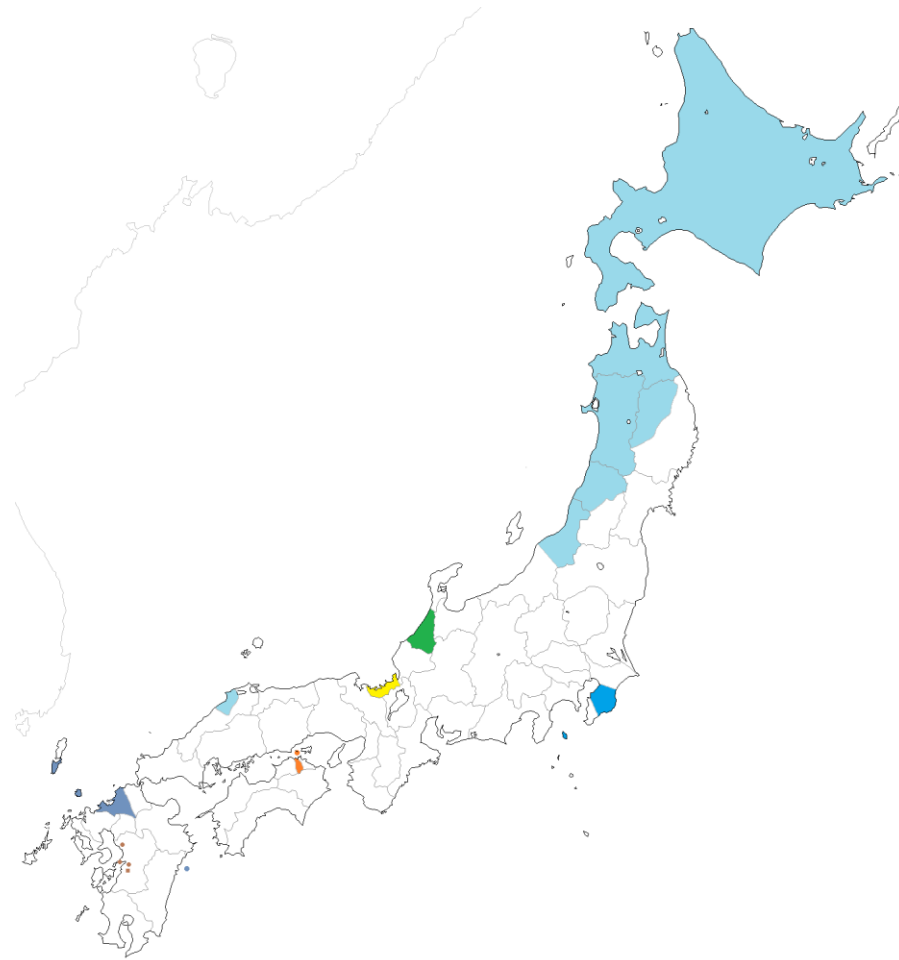
## (1) 富山方言の2モーラ名詞（松森ほか2021 より）

LH-H（風-が）	HL-L（耳-が）	LH-L（山-が）
-----------	-----------	-----------

「耳」グループ：2モーラ目が狭母音、もしくは特殊拍

「山」グループ：2モーラ目が広母音（非狭母音）

# 母音の広狭とアクセントの実現



# 母音の広狭とアクセントの実現

- 西南部九州二型アクセント諸方言においては、少数の例を除いて母音の広狭が音調に影響するような方言は知られていない
  - 鹿児島市方言（木部2000, 木部2012）
  - 長崎市方言（坂口2001, 松浦2014）

## (2) 鹿児島市方言の二型アクセント体系（木部2012）

	A型	B型
1音節名詞	[ハ]（葉）	[ハ（歯）
2音節名詞	[ハ]ナ（鼻）	ハ[ナ（花）
3音節名詞	サ[ク]ラ（桜）	ココ[ロ（心）
4音節名詞	カマ[ボ]コ（蒲鉾）	アサガ[オ（朝顔）
5音節名詞	アバラ[ボ]ネ（肋骨）	ハルヤス[ミ（春休み）

# 母音の広狭とアクセントの実現

- 西南部九州二型アクセント諸方言においては、少数の例を除いて母音の広狭が音調に影響するような方言は知られていない

## (2) 鹿児島市方言の二型アクセント（平山1951）

### ➤2音節名詞

A型：[イ]シヨ（衣装）、[バ]ラ（箒）、[エ]ツ（灸）、[コ]ズ（小僧）

B型：ア[メ]（雨）、ケ[ド]（街道）、ア[キ]（秋）、シヨ[チュ]（焼酎）

### ➤3音節名詞

A型：ア[カ]ゴ（赤兒）、ア[ラ]レ（霰）、ア[カ]リ（灯）、フ[タ]ツ（二つ）

B型：アシ[タ]（明日）、オモ[テ]、アク[ビ]（欠）、イツ[ツ]（五つ）



# 先行研究

# 先行研究：平山（1951）の記述

- 二型アクセント体系の諸方言

- 鹿児島、葦北・三角・玉名（熊本県）、藤津・佐賀中部（佐賀県）  
三河内・早岐・長崎（長崎県）

- 母音の広狭によって音調が変わるような方言の記述は無い

- 撥音・促音・長音・二重母音の後半・**無声化母音**など「独立性の乏しい」音は音調の山を担えない

## (3) 鹿児島方言の母音の無声化とアクセントの関係（木部2000）

A型：ウ[メ]ボシ（梅干）、ウ[ル]ドシ（閏年）、[ガ]ラス、コ[ス]モス

B型：モノ[サシ（物差し）、ウグ[イス（鶯）、ハブ[ラシ（歯ブラシ）

# 先行研究：平山（1951）の記述

- 壱岐中南部

- 非二型アクセント体系

- 2モーラ名詞第1類・第2類のうち、語末の母音が**広母音**のものが尾高型（LH-L）、**狭母音**のものが頭高型（HL-L）

- 尾高型 LH-L：ア**メ**（飴）、イ**カ**（烏賊）、オ**ト**（音）、キ**タ**（北）

- 頭高型 HL-L：キ**ズ**（傷）、キ**リ**（霧）、カ**ミ**（紙）、ツ**ル**（弦）

# 先行研究：平山（1951）以降の研究

- 添田（1996:213）

- 「新北肥後式」（現在の熊本県玉名市周辺）

- B型2モーラ名詞が、語末の母音の広狭によって音調型が変わる

A型	B型	
	語末が狭母音	語末が広母音
[○]○ [○]○-ガ	[○]○ [○]○-ガ	○○ or ○[○] ○[○]-ガ

# 先行研究：平山（1951）以降の研究

- 崎村（2006）

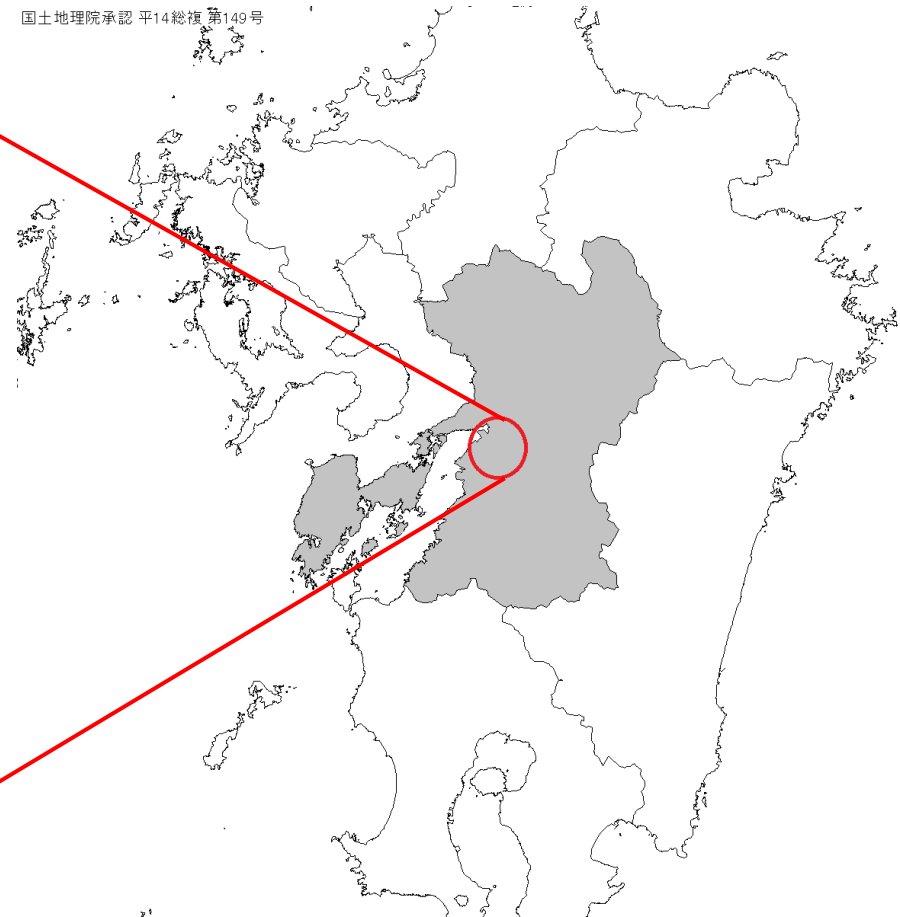
- 熊本県三角町大岳方言

- A型2モーラ名詞が、語末の母音の広狭によって音調型が変わる

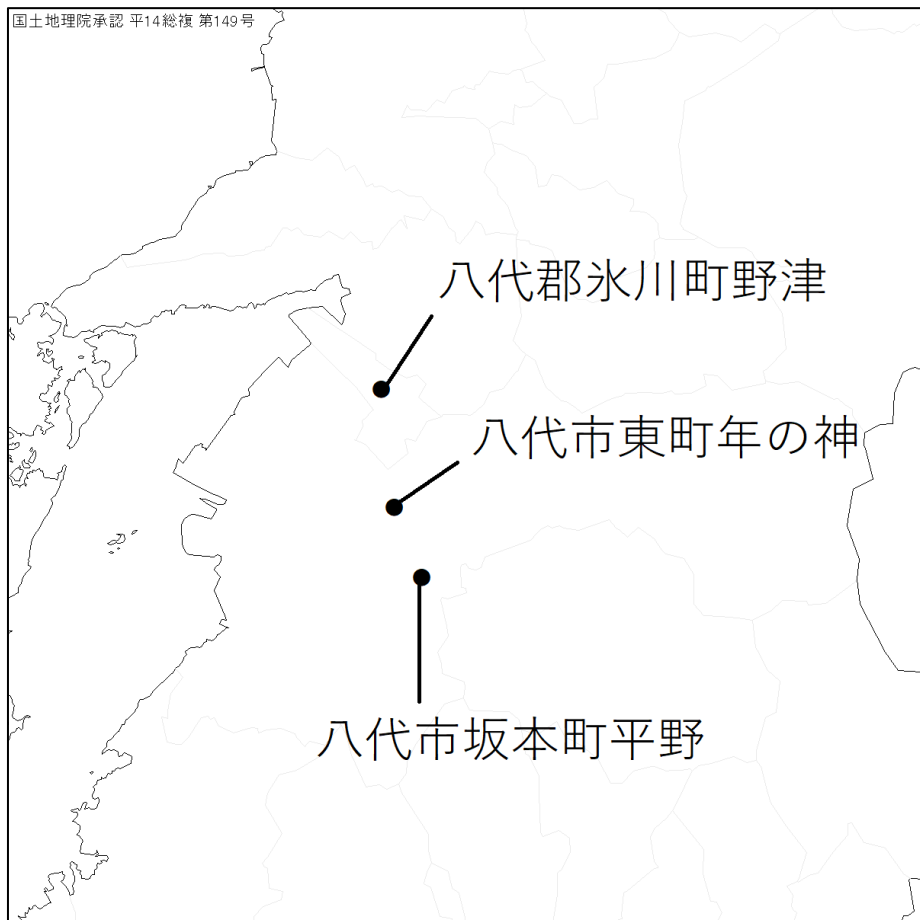
A型		B型
語末が狭母音	語末が広母音	
[○]○	○[○]	○○

# 熊本県の二型アクセント諸方言

# データについて



# データについて



- 各話者1名
- 野津方言：長崎タイプ
- 平野方言、年の神方言：鹿児島タイプ

	A型4モーラ名詞
野津方言	ナ[ツ]ヤスミ (夏休み)
年の神方言	ナ[ツヤス]ミ (夏休み)
平野方言	[ナツヤス]ミ (夏休み)



# データについて

- 調査語

- CVCV構造の2モーラ名詞約40語

- CVCVCV構造の3モーラ名詞約40語

- アクセント型（A型orB型）、語末の母音（広母音or狭母音）を変数

- 各調査語につき2回ずつ読み上げていただいた

- 予稿集図1~12：foと持続時間で標準化したfoの動態をプロット

# 結果：A型

- 3方言に共通して見られる特徴
  - 名詞単独形で、狭母音（Ac）よりも広母音（Ao）のほうが下降の開始が遅い
  - ただし、野津方言の2モーラ名詞単独形では顕著に見られない

# 結果：平野方言のA型

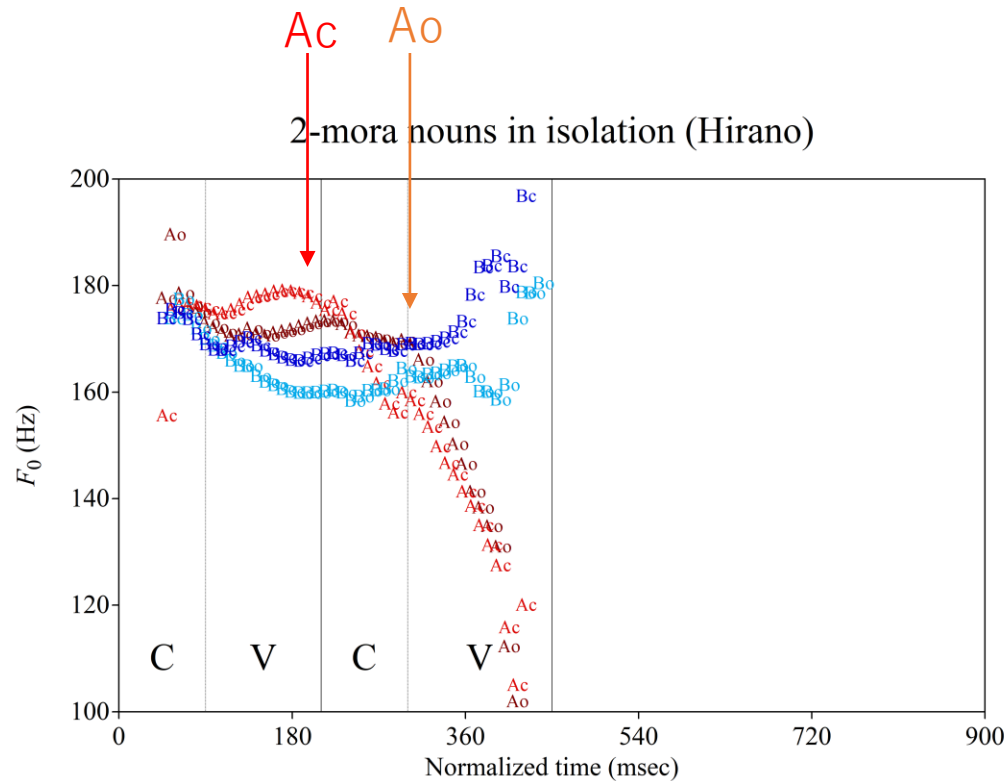


図1. 平野方言2モーラ名詞単独形

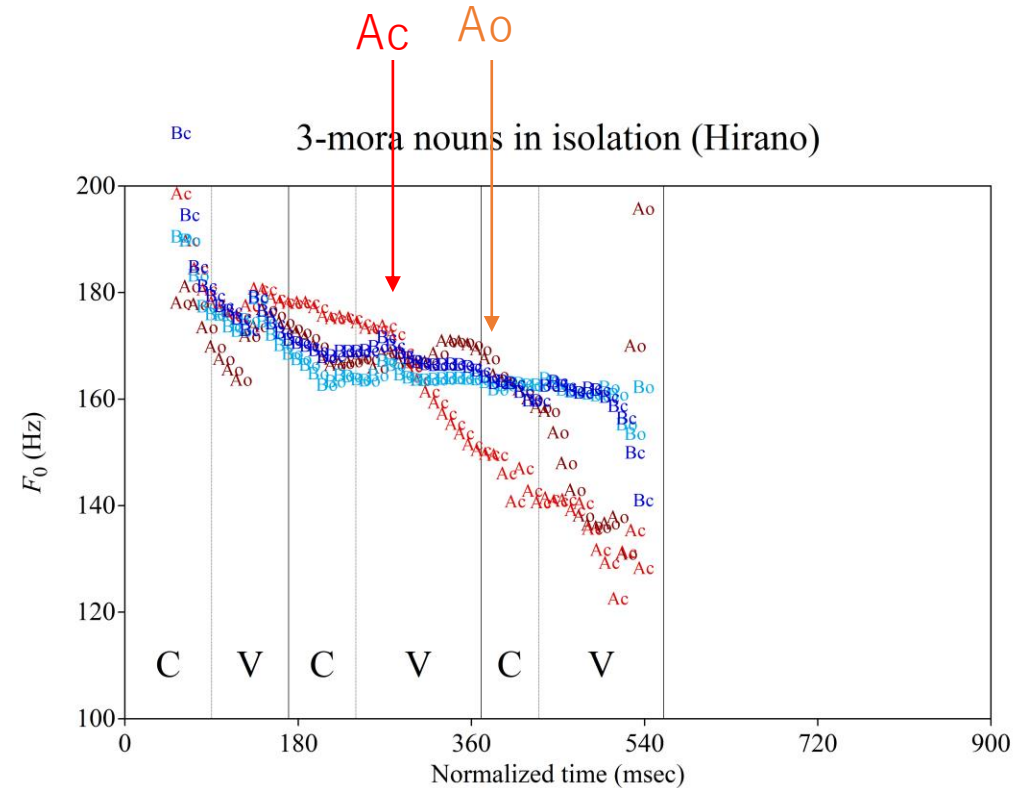


図2. 平野方言3モーラ名詞単独形

# 結果：年の神方言のA型

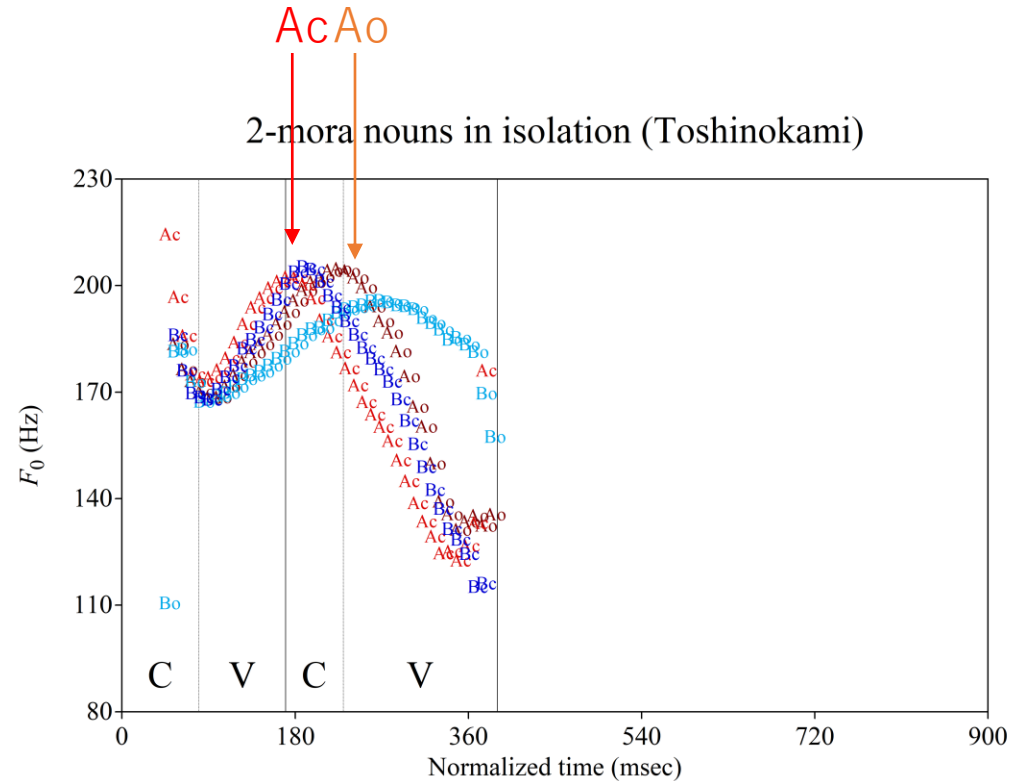


図3. 年の神方言2モーラ名詞単独形

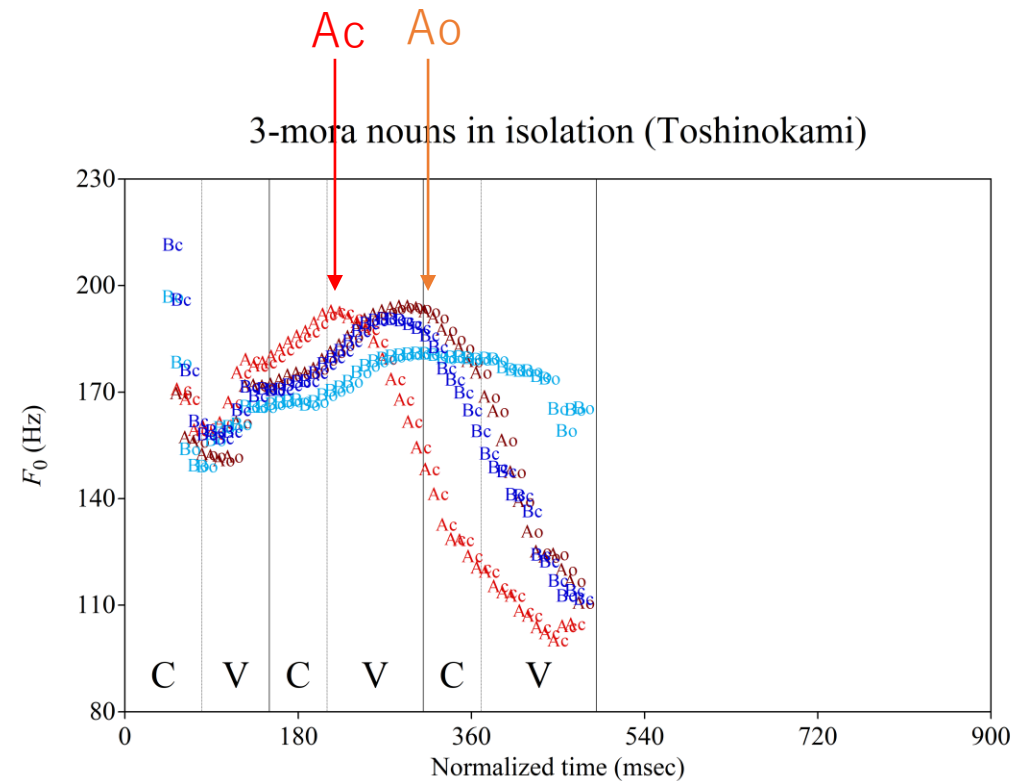


図4. 年の神方言3モーラ名詞単独形



# 結果：B型

- 平野方言のB型

- ▶ 名詞単独形（図1、2）と助詞ガ付き（図7、8）いずれにおいても語末の母音の種類は影響せず、foの顕著な下降は無い
- ▶ 顕著な下降があるA型 vs. 顕著な下降が無いB型

# 結果：平野方言のB型（単独形）

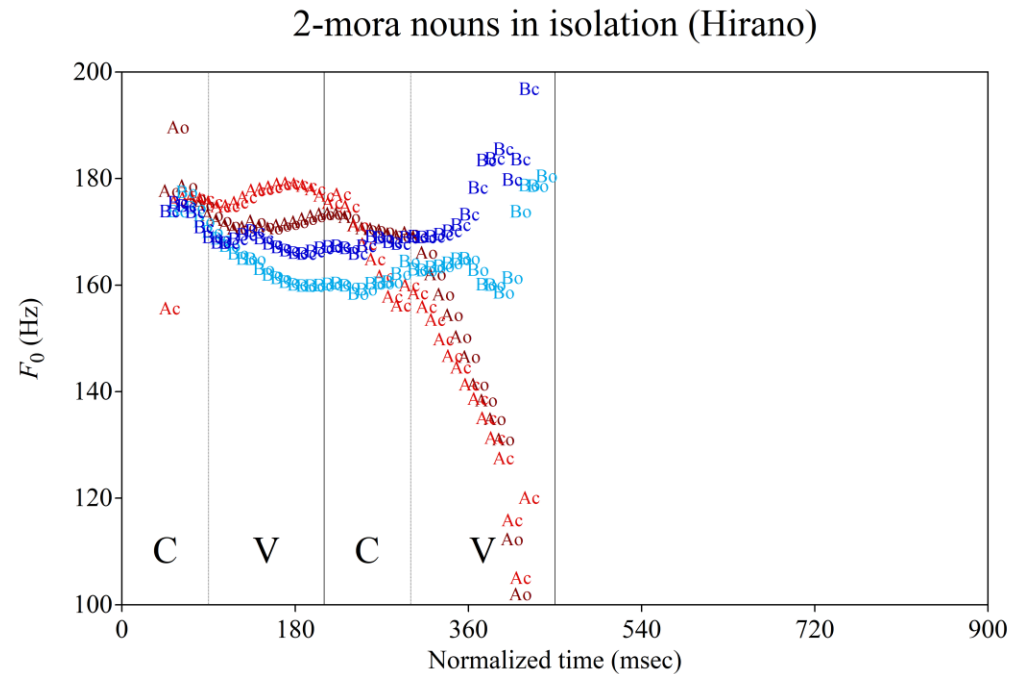


図1. 平野方言2モーラ名詞単独形

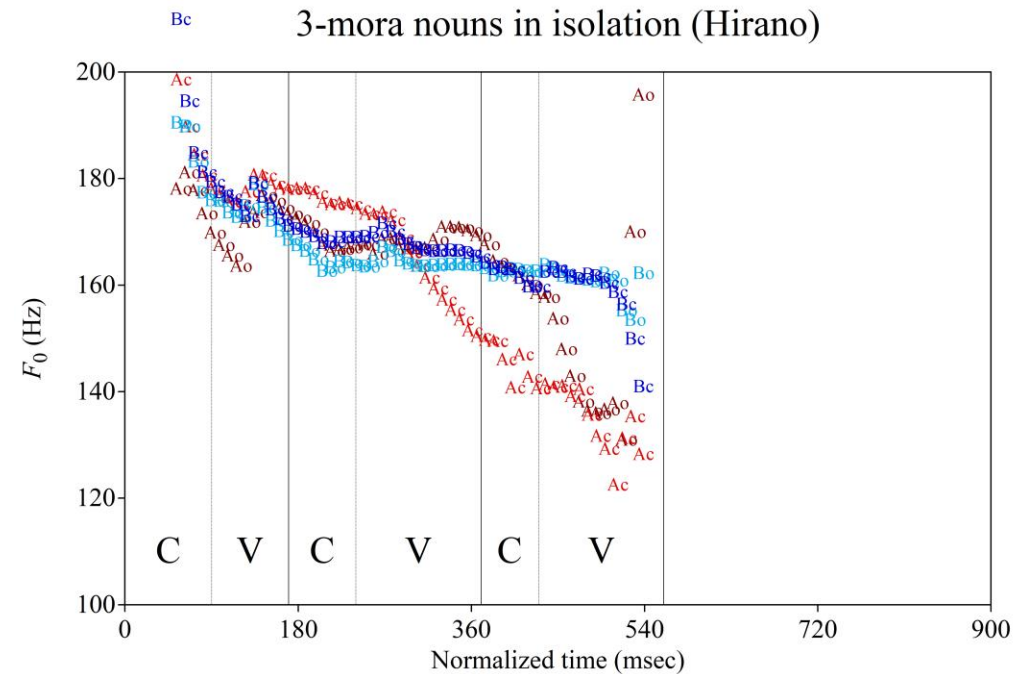


図2. 平野方言3モーラ名詞単独形

# 結果：平野方言のB型（助詞が付き）

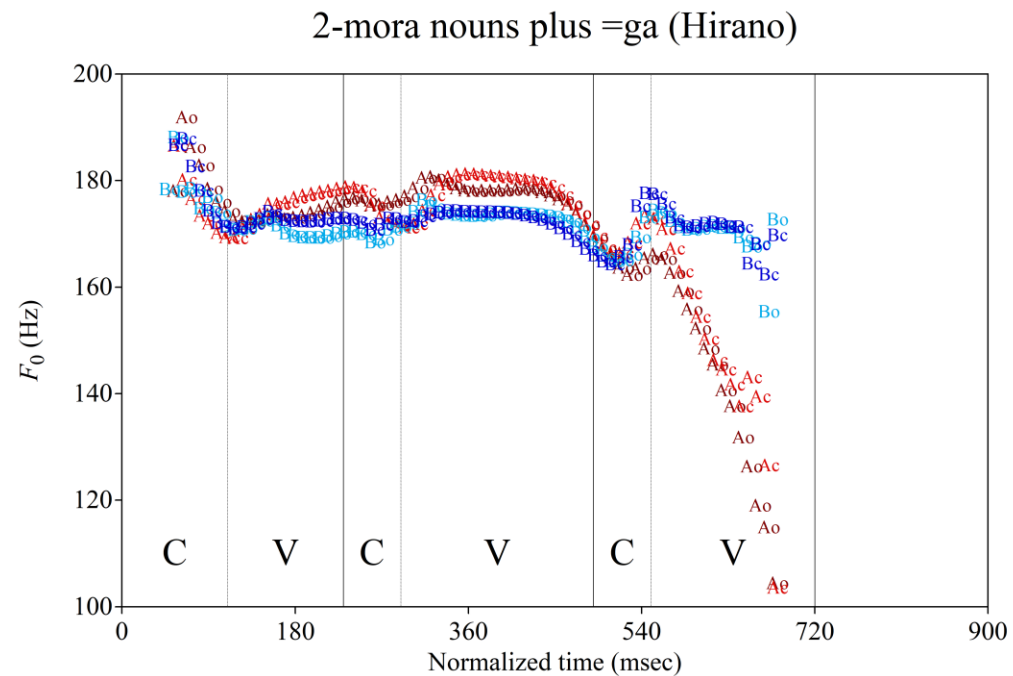


図7. 平野方言2モーラ名詞+ガ

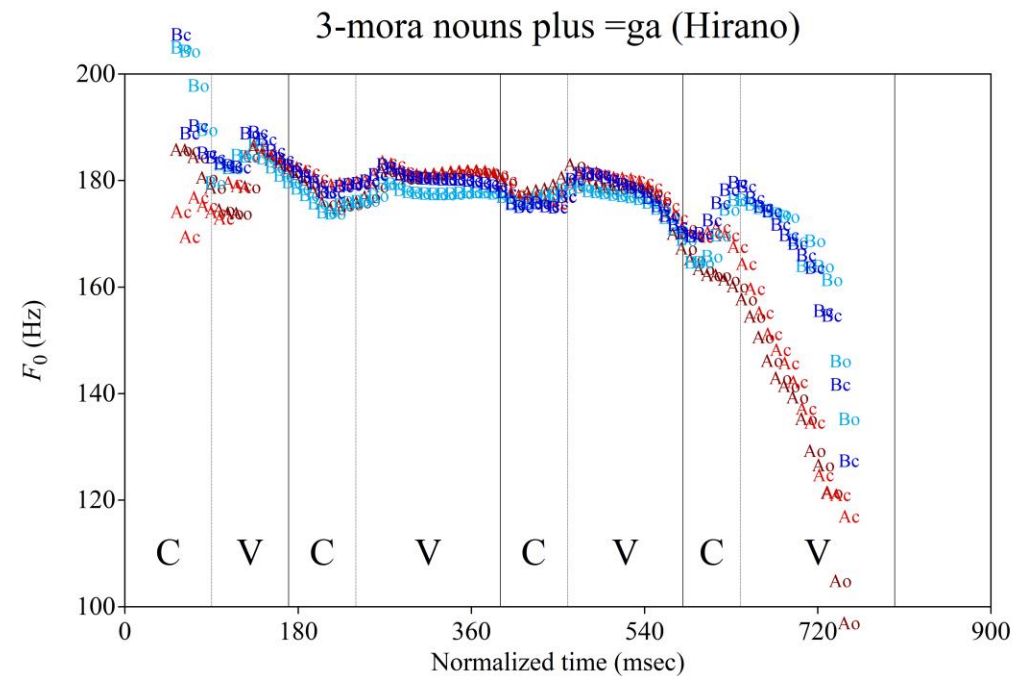


図8. 平野方言3モーラ名詞+ガ



# 結果：B型

- 年の神方言のB型

- ▶ 名詞単独形（図3、4）では、語末が狭母音（Bc）であれば最終モーラ付近に急な下降が現れ、広母音（Bo）では顕著な下降は無い
- ▶ 助詞ガ付き（図9、10）では語末の母音に関わらず、foの顕著な下降は見られない

# 結果：年の神方言のB型（単独形）

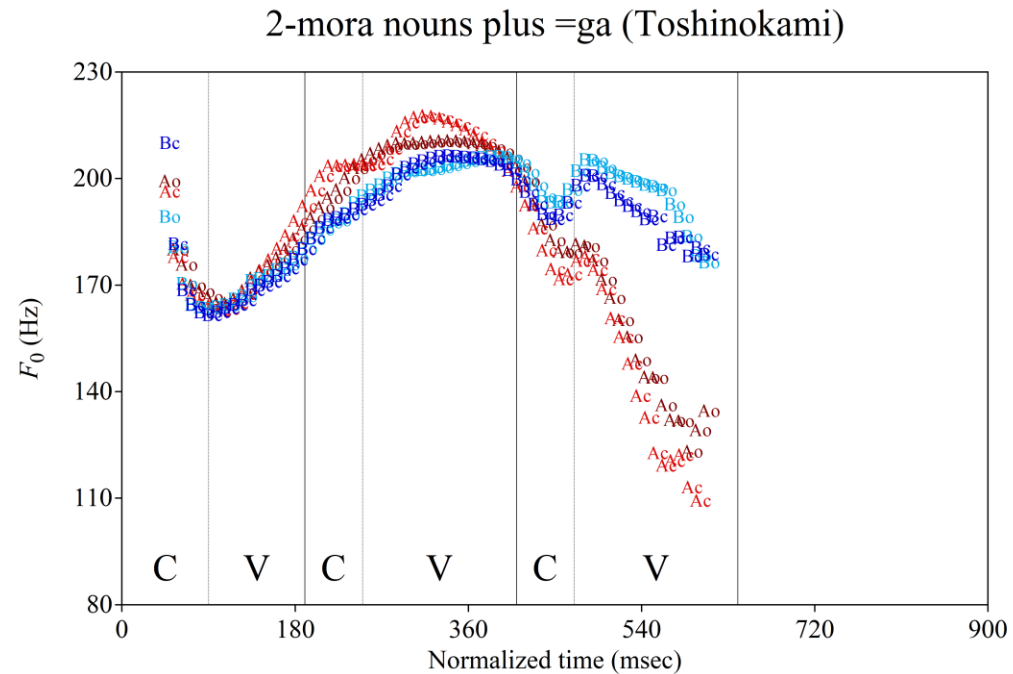


図3. 年の神方言2モーラ名詞単独形

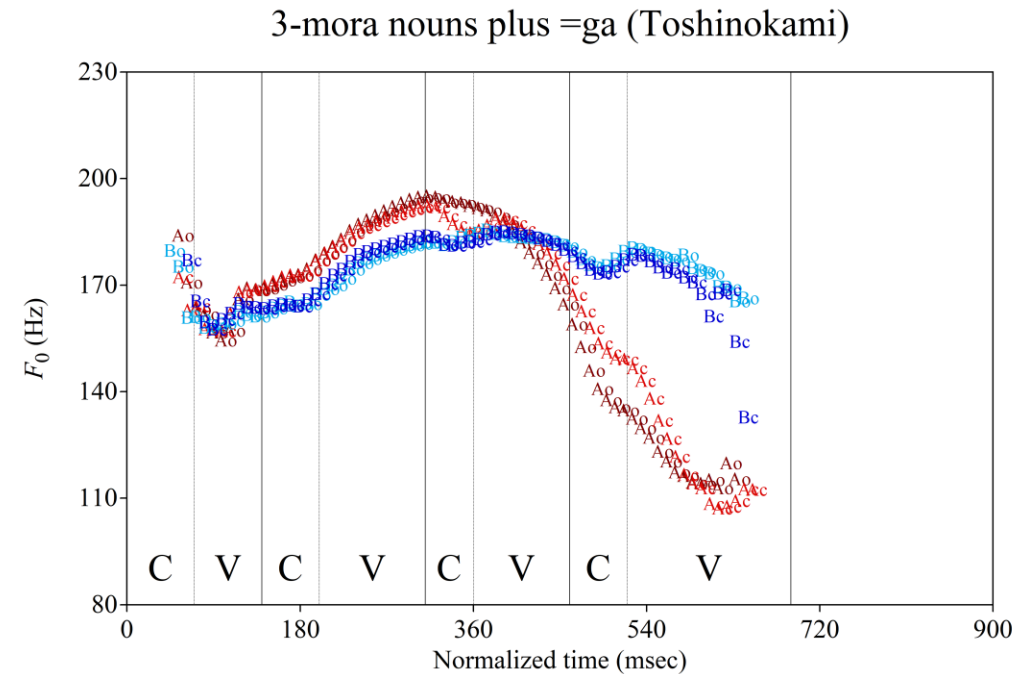


図4. 年の神方言3モーラ名詞単独形

# 結果：年の神方言のB型（助詞が付き）

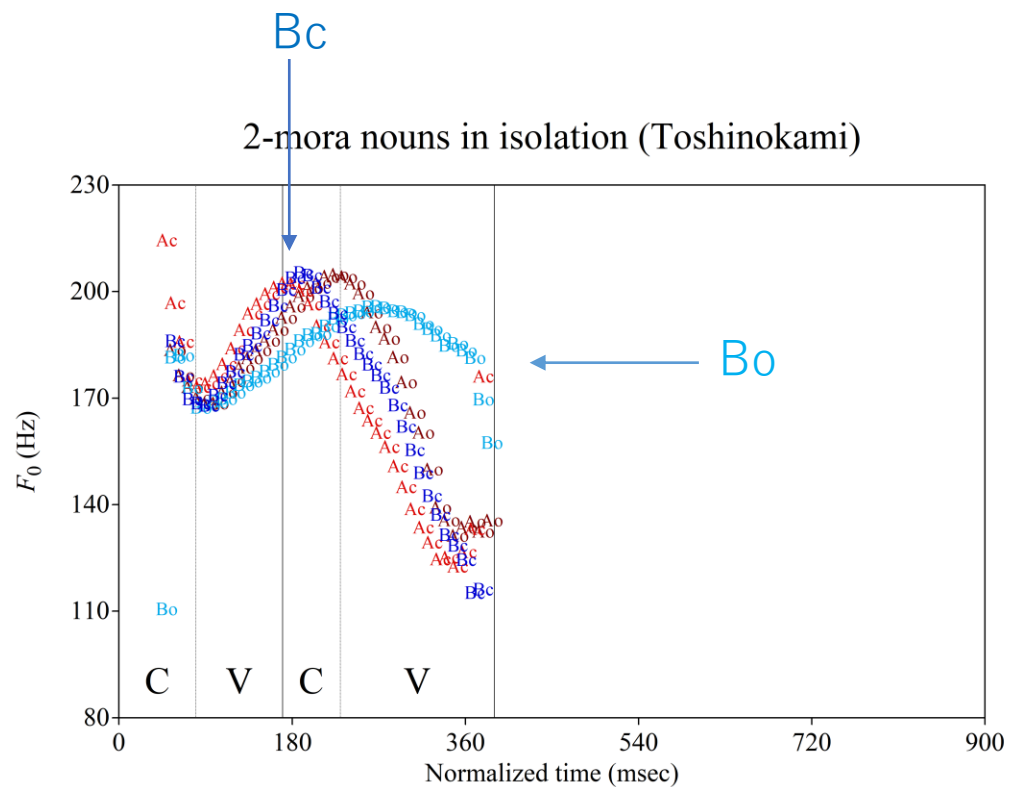


図9. 年の神方言2モーラ名詞+ガ

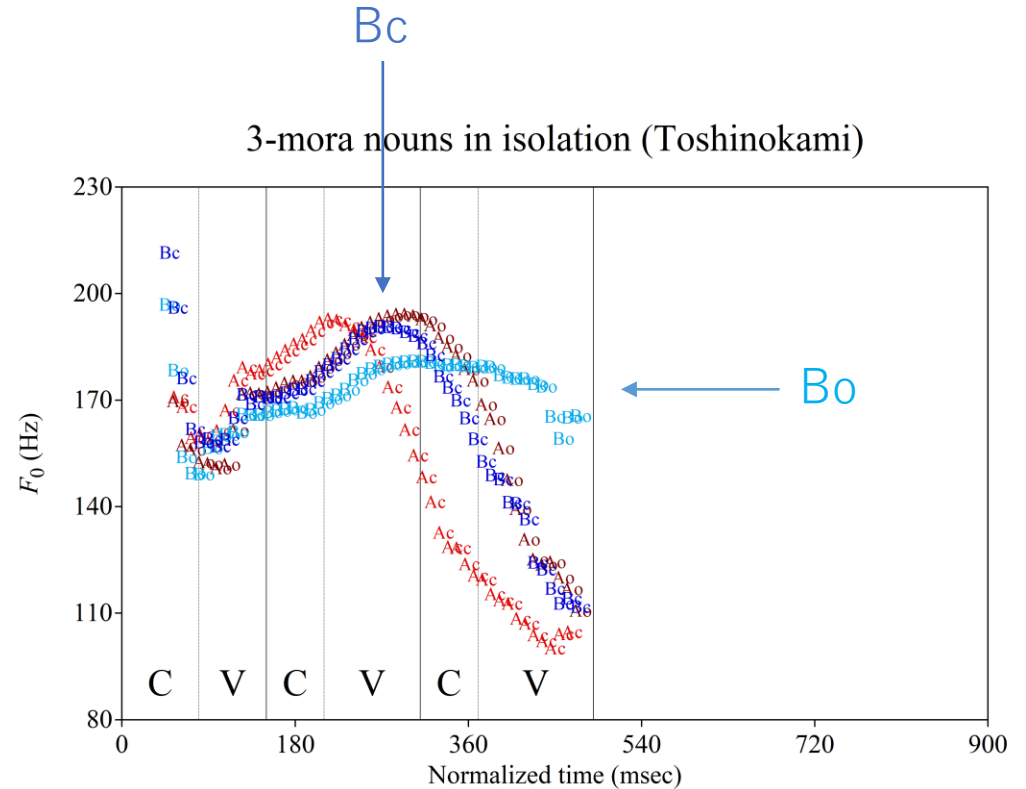


図10. 年の神方言3モーラ名詞+ガ

# 結果：B型

- 野津方言のB型

- ▶ 名詞単独形（図5、6）では、語末が狭母音（Bc）であれば最終モーラ付近に急な下降が現れ、広母音（Bo）では顕著な下降は無い
- ▶ 助詞ガ付き（図11、12）では、**語末**が広母音（Bo）であれば最終モーラ付近に急な下降が現れ、**語末**が狭母音（Bc）では顕著な下降は無い

# 結果：野津方言のB型（単独形）

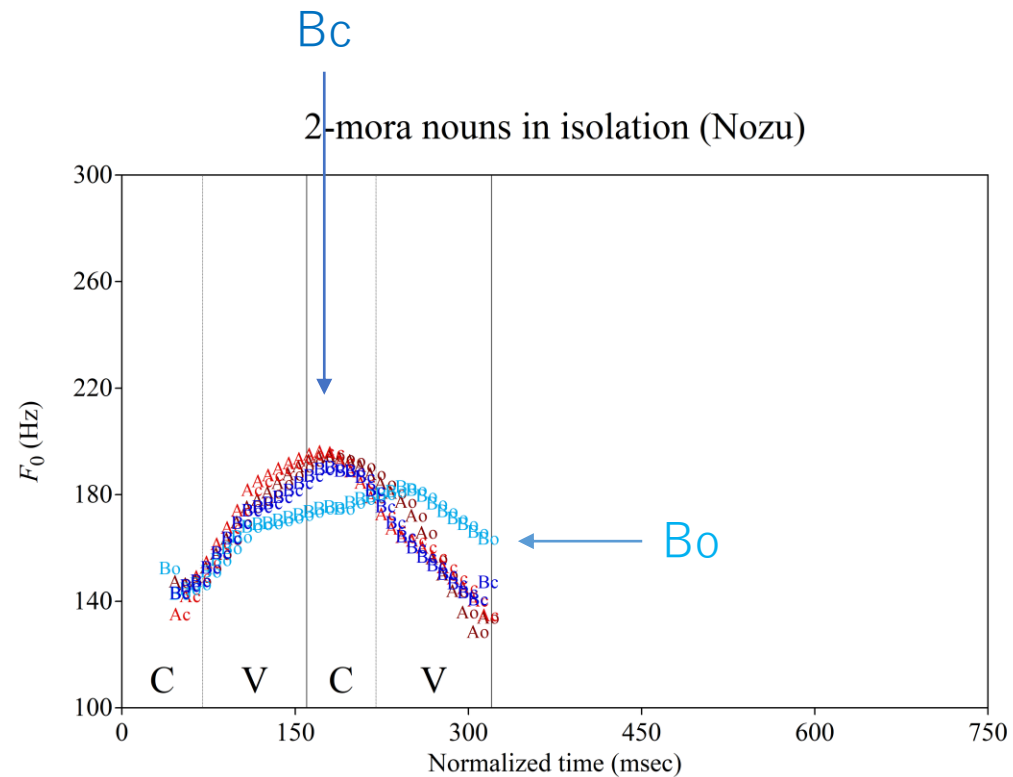


図5. 野津方言2モーラ名詞単独形

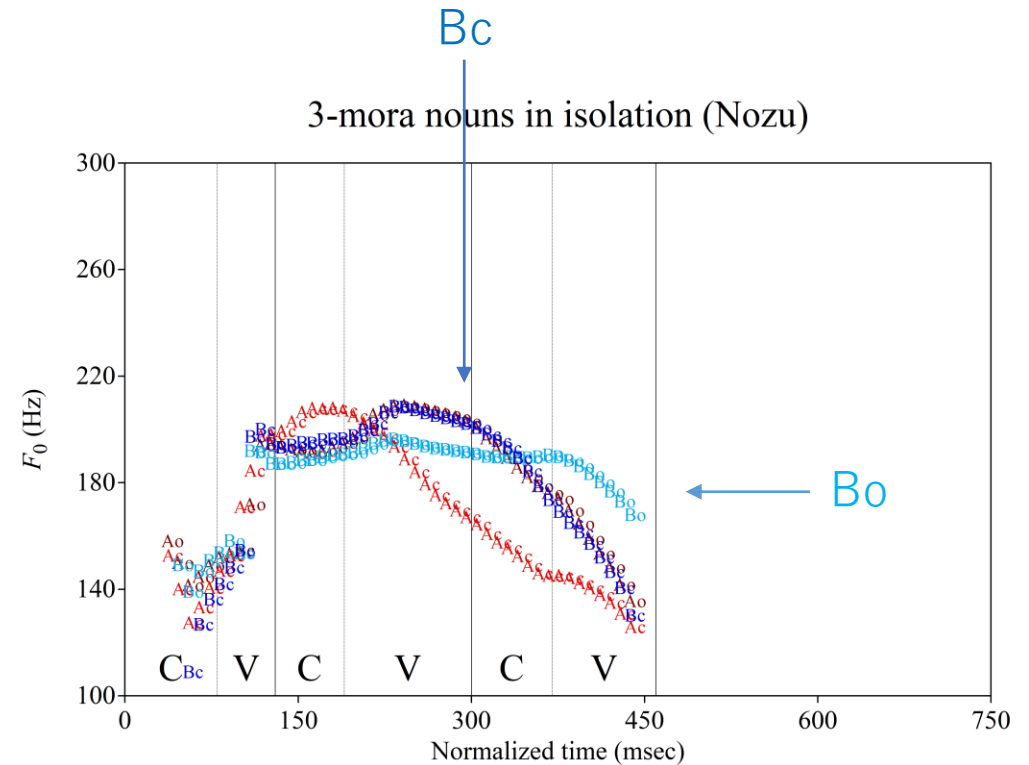


図6. 野津方言3モーラ名詞単独形

# 結果：野津方言のB型（助詞が付き）

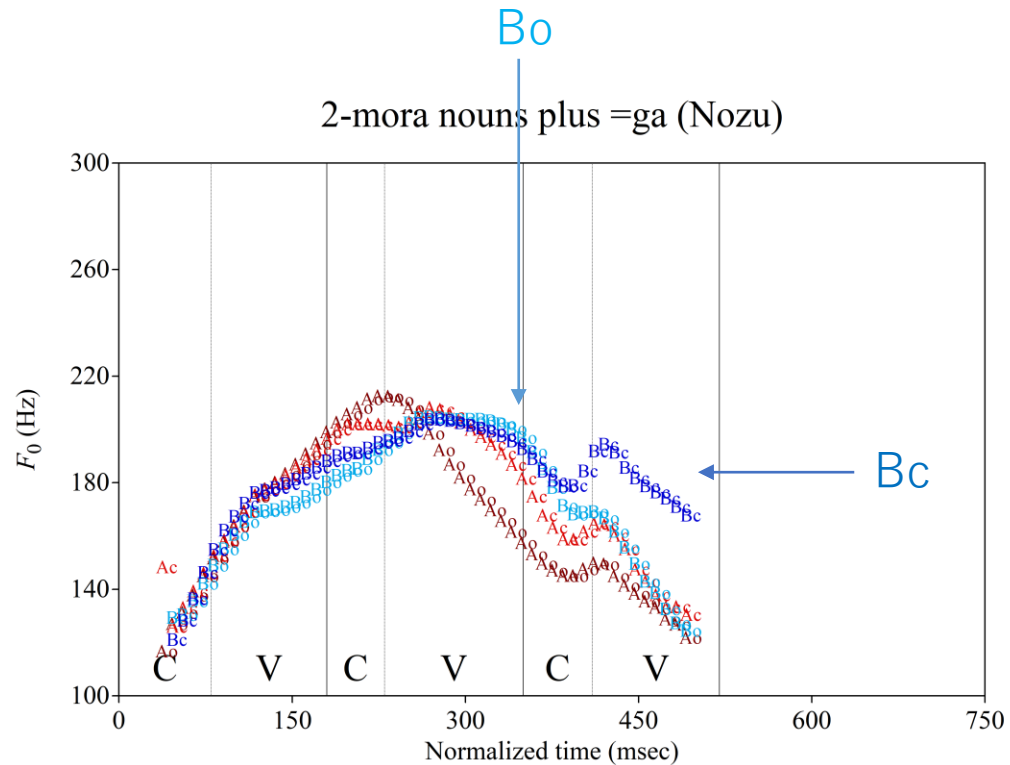


図11. 野津方言2モーラ名詞+ガ

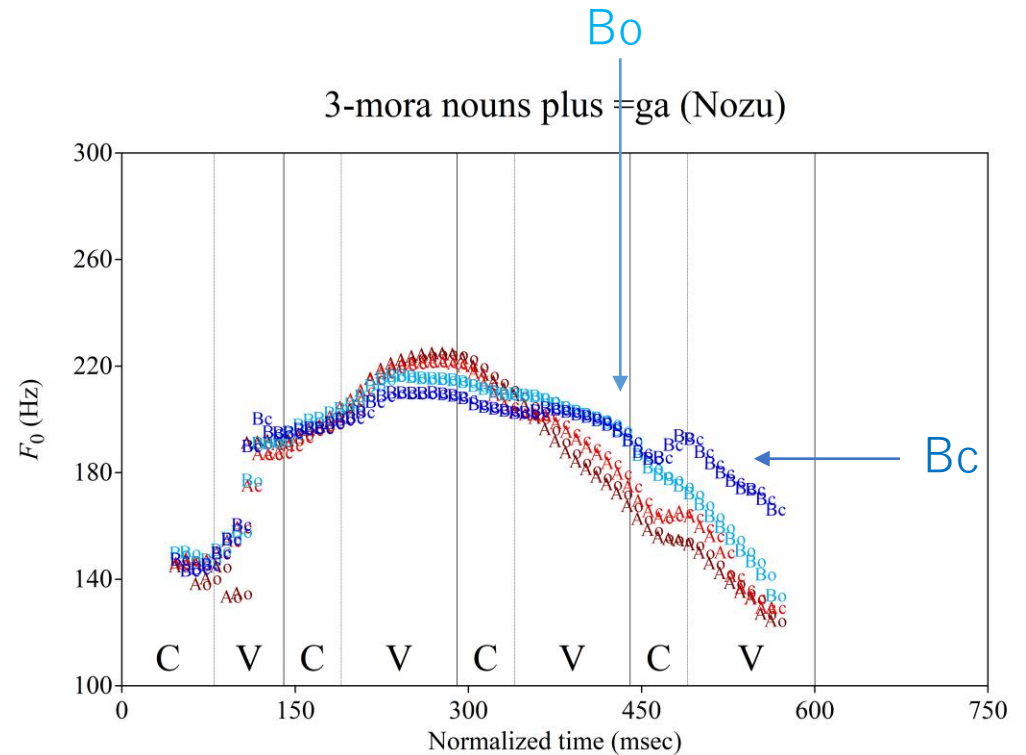


図12. 野津方言3モーラ名詞+ガ

まとめ

# まとめ

- A型は平野・年の神・野津3方言に共通して、広母音終わり(Ao)のほうが下降開始が遅い
    - 熊本県宇城市三角町大岳方言の二型アクセント（崎村2006）も同様の傾向があることが伺える
- (4) 大岳方言の二型アクセント（崎村2006）

A型		B型
語末が狭母音	語末が広母音	
[○]○	○[○]	○○



# まとめ

- B型における語末の母音の広狭の影響をまとめると、以下の3タイプに分類できる

B型の語末の母音の広狭の影響	方言
なし	平野
名詞単独形のみ	年の神
名詞単独形、助詞付き	野津

# まとめ

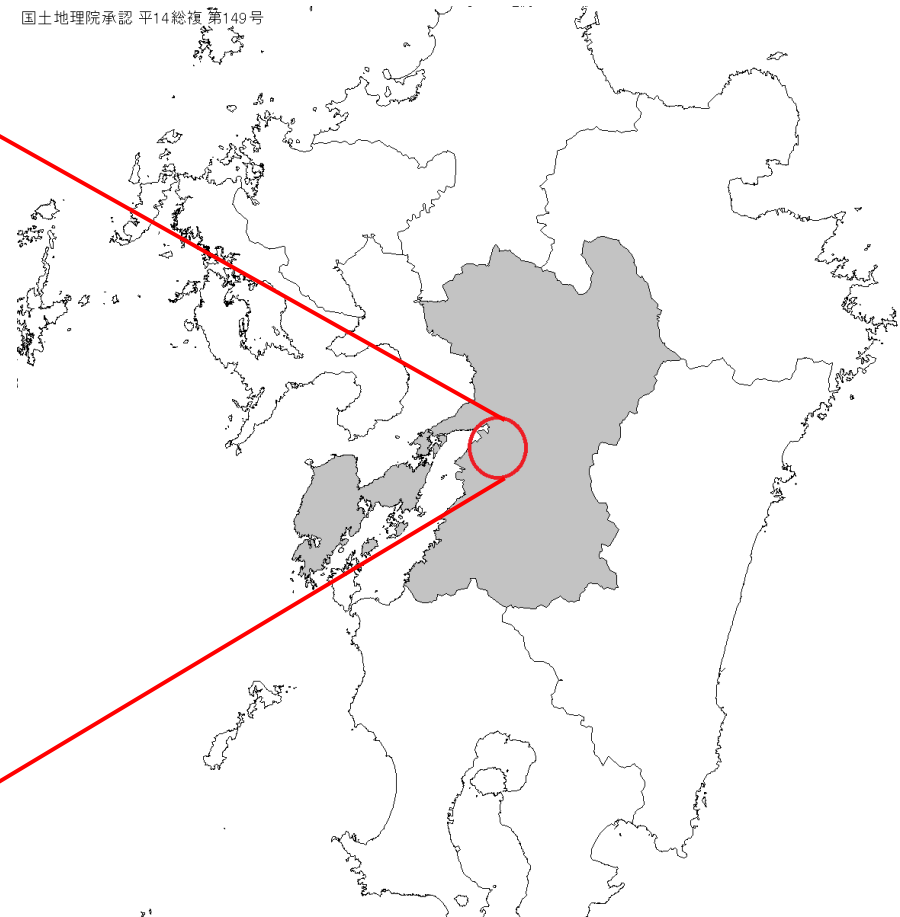
- B型における語末の母音の広狭の影響をまとめると、以下の3タイプに分類できる

B型の語末の母音の広狭の影響	方言
なし	平野、鹿児島市、長崎市
名詞単独形のみ	年の神
名詞単独形、助詞付き	野津、新北肥後式

# 参考文献

- 上野善道（2009）「通時的にしか説明できない共時アクセント現象一句読の上昇と語音との関係」『月刊言語』38:1, 74-81, 東京：大修館書店.
- 木部暢子（2000）『西南部九州二型アクセントの研究』東京：勉誠出版.
- 木部暢子（2012）「西南部九州二型アクセントの特性の比較 一助詞・助動詞のアクセントを中心として一」『音声研究』16:1, 80-92.
- 坂口至（2001）「長崎方言のアクセント」『音声研究』5:3, 33-41.
- 崎村弘文（2006）『琉球方言と九州方言の韻律論的研究』東京：明治書院.
- 添田健治郎（1996）『日本語アクセント史の諸問題』東京：武蔵野書院.
- 平山輝男（1951）『九州方言音調の研究』東京：学界之指針社.
- 松浦年男（2014）『長崎方言からみた語音調の構造』東京：ひつじ書房.
- 松森晶子・新田哲夫・木部暢子・中井幸比古（2012）『日本語アクセント入門』東京：三省堂書店.

# 補足



# 補足

- B型における語末の母音の広狭の影響をまとめると、以下の3タイプに分類できる

B型の語末の母音の広狭の影響	方言
なし	平野、 <u>壬丁</u> 、鹿児島市、長崎市
名詞単独形のみ	年の神、 <u>鏡村</u>
名詞単独形、助詞付き	野津、 <u>東小川</u> 、 <u>戸馳</u> 、 <u>上鏡</u> 、新北肥後式